

7日・ソフトボール女子

銅

長崎商



昨年の「金」に続いて銅メダルを手にしたソフトボール女子の長崎商

いい報告できる／悔いはない

◆溝口弘一郎監督

(準決勝で敗れた)山梨学院を率いるのは、2003年長崎ゆめ総体で星野(埼玉)を優勝に導いたベテラン監督。初の準決勝で私も成長させてもらった。

◆後田彩花投手(3年)

2年生の北川は去年の自分以上にしっかり投げられる。チームに勇気をもたらすエースになってほしい。

◆松尾愛里主将・捕手(3年)

今大会、本塁打を3本打ったのは昨年12月に亡くなったおじいちゃんに応援してくれたからだと思う。帰っていい報告ができる。

◆吉岡倅一塁手(3年)

4強の壁は高かった。ワンバウンドの送球もしっかり取れたので、自分の仕事はしっかりやれた。

◆村子瑠菜二塁手(3年)

打撃の持ち味はツーストライクからの粘り

強さ。どの試合も1打席目はそれが出せたので悔いはない。

◆永野芽衣三塁手(3年)

昨夏、準決勝以降の試合ができなかった先輩の分まで頑張れた。最後まで自分たちらしくプレーできた。

◆黒川洸季遊撃手(3年)

準決勝で0-2の六回はそのままでは終われないと思ってヒットを打った。守備では後田が打ち取ってくれるので、絶対アウトにしようと集中した。

◆石本千理内野手(3年)

ベンチから声を出して盛り上げてくれた。ピンチの場面でも投手が内野ゴロに打ち取るシーンが一番うれしかった。

◆北川あい投手(2年)

準決勝で負けた悔しさを忘れない。もっと三振を取るように制球力をつけて、日本一のエースになる。